

調査報告概要表

作成日: 成 19 年 5 月 8

【評価実施概要】

事業所番号	4670102500
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ西陵
所在地 (電話番号)	鹿児島市西陵5丁目12番4号 (電 話) 099-282-2497
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島県真砂本町21-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年5月8日

【情報提供票より】(平成19年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8(8) 人	常勤	5(6)人, 非常勤 3(2)人, 常勤換算 7.3(7.2)

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.7 歳	最低	82 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・田上記念病院 ・西歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、JR鹿児島中央駅より車で10分の距離にあり、団地の中心部に位置し、ホテルを思わせるような建物である。周囲は大型のストア・銀行・商店等もすぐ近くにあり、交通の便も良く恵まれた環境にある。ホームの特徴としては、母体が医療法人で、また、協力機関の病院が隣接しているので、利用者の健康管理が充実しており、その情報を家族と共有している。また、口腔ケアに力を入れており、感染予防を図ると共に、食事を美味しく自分の歯で食べる支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前は、要改善の課題は特に無し。コメントされた項目についても、職員会議で検討しすべて対応している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議で管理者及び全職員で意見を出し合い、自己評価している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2回実施され、利用者の状況やサービスの内容等が紹介され、また、夏祭りの際の安全対策・地域の連携などについての意見交換もあり、そこでの意見等をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見・不満・苦情を管理者や職員ならびに外部へ表せるよう、相談窓口・相談箱・第3者委員を設け、それらを運営に反映させるよう体制作りしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、自治会・行事等地域活動に参加すると共に、商店・ストア等を日頃より利用することにより地元の人々との交流に努めている。町内会のニュースにもホームが紹介されている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あなたと家族の絆を地域の中で大切に支えて行きます」等、事業所独自の理念を作成している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は、ミーティング・申し送り等で理念の共有を図り、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、自治会・行事等地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。町内会ニュースにもホームの紹介あり。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は、自己評価・外部評価の意義を理解し、前回の評価結果も職員会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二回開催され、利用者やサービスの内容等が紹介され、町内会長や家族の意見交換もあり、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの管理部長及び課長が代表となり、市の高齢者福祉課と連絡を密にとり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
ぐ					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月行事予定表は送付し、年4回「はるかぜ新聞」を発行し、利用者の近況を報告している。金銭出納帳も面会時確認がなされ、遠方の家族には電話・手紙などを利用している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見・不満等表せるよう、相談窓口を表示し、相談箱も設置している。第3者委員も町内会長に依頼するなど体制作りしている。また、忘年会・母の日等家族との交流を図り、話しやすい雰囲気づくりに配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよう、異動や離職を最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、段階に応じて法人内外の研修に随時参加している。事業所内研修は、月1回ミーティングの際に実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員は、鹿児島県・市のグループホーム協議会に加入し、随時勉強会・交流を図ると共に、法人内のグループホーム連絡会にても研修を実施し、サービスの質を向上させるべく取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、利用前にホームの見学やスタッフとお茶飲みをするなど、職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を介護を受けるだけの対象と捉えず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から昔の生活の技や料理等を学んだり、支え合う生活を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や日々の生活の中で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。コミュニケーションの取りにくい方については、本人の気持になって検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成については、本人・家族・スタッフを交えたサービス担当者会議を開き、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直し、状態変化があった時は、随時サービス担当者会議を開き、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、移送サービス・特別な外出支援など、柔軟な支援をしている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に各々の主治医を把握し、本人や家族の希望する医療機関と事業所は、連絡を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、家族への説明はなされており、対応を確認している。看取りに関する指針や重度化に関する指針は作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損わないような言葉かけや対応・記録等の取扱も配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかなスケジュールはあるが、職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、希望に副った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が、同じテーブルで楽しんで食事をしている。さりげなくサポートも行い、食事の準備や片付けも一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は週3回入浴しているが、本人の要望で毎日入浴できる体制となっている。入浴時間や順番は利用者の希望を優先し、それぞれのペースでゆったりと入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族より生活歴等を聴取し、それを基に、利用者一人ひとりの能力に応じた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにスター・銀行・商店などがあり、希望者は気軽に買い物や散歩に出かけられる様に支援している。		
に					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び全ての職員は、鍵を掛けることへの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。全職員は利用者一人ひとりの外出の癖や傾向を把握しており対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署による避難訓練をしており、また、夜間の訓練もしている。隣接するホームと協力体制も整っている。地震等に対するマニュアルも作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個人日誌に記録し、栄養のバランスも栄養士がチェックしている。水分補給についても見守り声かけをし、確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間それぞれが開放感があり、利用者にとって不快な音や光を感じないよう配慮している。各々のスペースに花が飾っており、畳の上には季節行事に合わせた飾り付けをするなど、季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのダンス・アルバム・ソファー、また、神棚等の持ち込みも多く、本人が安心して生活できる場所になっている。		